

# ハイライトよねやま 74

(財)ロータリー米山記念奨学会

2006年4月13日発行

## 1. 寄付金速報 ～ 2005年度、残り3カ月を切って～

3月までの寄付金は前年同期と比べ1.7%増、約2千万円の増加でした。普通寄付金が0.04%増、特別寄付金が2.60%増です。先月に比べて伸び率が低下したものの、9カ月連続で前年度寄付累計額を上回っています。

なお、3月20日付で「2005-06年度 普通寄付金送金のお願い」を約150のロータリークラブ会長宛にお送りしました。普通寄付金は当奨学会の安定的な財源となっています。普通寄付金をご送金いただいていないクラブは、お早めにお送りくださいますようお願い申し上げます。

## 2. 2006学年度の米山奨学生が決定！ ～ 新規・継続合わせて805名がスタート～

今年度の合格者と、昨年からの継続奨学生を合わせた2006学年度の米山奨学生805名（休学延長者1名を含む）が決定しました。

新規奨学生の世話クラブ・カウンセラーもほぼ決まり、5月には各地区で奨学生を対象としたオリエンテーションが開催されます。その席上で確約書に署名をして、はじめて正式な米山奨学生となります。どうぞ温かくお迎えください。

|          |              |
|----------|--------------|
| 米山奨学生    | 787名         |
| 学部       | 126名         |
| 修士       | 376名         |
| 博士       | 277名         |
| 地区奨励     | 8名(4名換算)     |
| クラブ支援奨学生 | 15名          |
| 特別米山奨学生  | 2名           |
| 休学による延長者 | 1名           |
| 計        | 805名(801名換算) |

\*2006年4月10日現在

## 3. 米山奨学生の博士号取得状況

4月になり、卒業式を終えた奨学生から続々と博士号取得の嬉しい報告が届いています。4月6日現在、2005学年度に博士号を取得した奨学生は45名。医・歯・獣医学系と工学系の学位取得者が多く、それぞれ13名ずつとなっています。毎年、90名前後の報告がありますが、報告を忘れる奨学生もいます。博士の学位取得者には米山奨学会よりお祝いの腕時計をお送りしています。世話クラブ・カウンセラーの皆様からも是非ご報告いただきますようお願い申し上げます。

### 博士号取得の申請方法

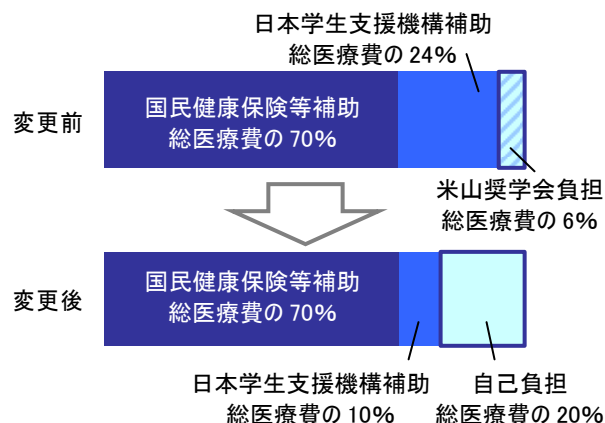
「学位記」か「学位取得証明書」を世話クラブ経由で米山奨学会へFAXしてください(FAX:03-3578-8281)。なお、元米山奨学生が博士の学位を取得した場合も、在日者に限り、記念品をお送りしています。



## 4. 米山奨学生に対する医療費補助制度の廃止について

2006年4月より米山奨学生への医療費補助制度が廃止されました。3月までに発生した医療費は従来通り補助されますので、早めに申請してください。

なお、在日留学生は国民健康保険への加入が義務づけられており、さらに日本学生支援機構の医療費補助制度が適用されます。ただし4月から同機構の医療費補助率も変更されたため、最終的な本人負担額は20%となります。



## 5. 異文化ケーススタディ ～ ヒンドゥー教の場合 ～

日本とは異なり、「宗教」が生活の根本になっている国も多く存在します。宗教的きまりの前では「郷にいれば郷に従え」は通用しません。決して無理強いはいないようにしましょう。今回は、69号でご紹介したイスラム教にひきつづき、ヒンドゥー教についてお伝えします。

ヒンドゥー教は、インド、ネパール、バリ島などで主に信仰されています。ヒンドゥー教では牛は神聖な生き物であり、人間にとって母なる生き物とされているので、牛肉は口にしません。ネパールでは牛を殺した場合、10年前後の懲役刑が課せられるそうです。最近では牛革製品を使用する人が増えていますが、寺院に入る前にはそれらをはずします。また、左手は不浄の手とされているため、握手や、物を渡すときは右手を使う習慣があります。

## 6. 足湯と水餃子で被災者のこころをほぐすボランティア【第2560地区／学友会主催】

2月19日、第2560地区（新潟県）の米山学友会が、中越地震・雪害等の被災者に「足湯」と「水餃子」を提供するボランティア活動を行いました。

雪の残る長岡市の仮設住宅集会場には仮設住宅の住民50人以上が集まり、漢方薬草を使った足湯につかりながら手をマッサージしてもらったり、数種類の手作り水餃子を食べたりしながら、心ゆくまでリラックスした時間を過ごしました。

この企画は、<sup>センシュウケン</sup>詹秀娟地区学友会会長が昨年12月、長岡市で関西の支援グループとともに行ったボランティア活動からヒントを得たもの。年明けに、足湯に使う薬草などを母国台湾から持ち帰り、準備をすすめました。

当日は学友と奨学生のほか、地元の学生も含め40人ほどのボランティアが会場に集合。米山奨学生たちは、「普段あまり会う機会のない学友と一緒に活動ができて嬉しい」と、生き生きとした表情で水餃子を作り、薬草を煮出して被災者を迎えました。



水餃子づくりを手伝った寺嶋一夫地区米山奨学委員長は、「奨学生や学友が、米山奨学事業の真の意味を理解してくれていると確信が持てた」と喜びをかみしめました。駆けつけた大島精次常務理事も「いつものレクリエーションではなく、一つの目的に向かって皆が力を合わせて活動した意義は大きい」と、学友会の今後に期待を寄せています。（当記事は、『ロータリーの友』2006年5月号“よねやまだより”に掲載予定です）



もうお読みになりましたか？

『点描 米山梅吉 日本のロータリークラブと信託業の創始者』

購入希望者は、書店あるいは新風舎(TEL:03-3746-4648)まで。 谷内 宏文 著 / 新風舎文庫 / 890円

(財)ロータリー米山記念奨学会 編集担当：野津・<sup>のぶ</sup>大庭  
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F  
Tel：03-3434-8681 Fax：03-3578-8281  
E-mail：highlight@rotary-yoneyama.or.jp  
URL：http://www.rotary-yoneyama.or.jp/